

市民会館の整備

市長就任当初から新文化会館の建設については、一度立ち止まって、今ある施設を有効に使い続けることができな
ないか調査・検討を進めてきました。その結果、市民会館の建物自体は、20年以上の耐久性があり、舞台設備や吊り天井の撤去などの改修を行ったうえで、継続使用することに決定しました。

この10年、新文化会館の整備について検討してきましたが、建設には、多額の市費が必要となることや、最有力候補地として取得したセルビ跡地の周辺道路の渋滞も懸念されます。また、駐車場用地と考えていた岡崎公園多目的広場が史跡保護のため使用できないことも分かりました。今回、施設利用者や各界有識者からご意見を伺う中で、特に印象的であったのは「芸術ホールなど施設を整えることも必要であるが、文化芸術をトータルマネジメントすることが重要である」という言葉でした。とかく箱モノ建設ばかりに目が向いてしまいましたが、どう活用するかを考えていきたいと思えます。新文化会館の必要性は十分認識していますが、本当の意味で、市民の皆さんに納得いただく施設整備を進め、本市の文化芸術の振興を図っていきます。

市長室より

Next!
岡崎
次の新しい おかざき

岡崎市長
内田 康宏

